

渡辺復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成30年10月10日(水) 17:37～17:45於) 飯舘村役場)

1. 発言要旨

本日は田村市、川内村、葛尾村、川俣町、飯舘村の市町村長に就任の御挨拶をし、意見交換をしたところでございます。

各市町村長からは、まず田村市長からは解除も早かったが、産業、なりわいの再生に取り組んでおり、田村市は田村市の課題があるので引き続きよろしくお願ひしたいという要望がなされました。

川内村長からは、約8割が帰還するも、子供たち、若い世代が戻らないので村の存続に関わるという危機感が示されました。新しい小中一貫校を予定しているので引き続き交付金で支援していきたいと考えております。

葛尾村長からは、営農再開、畜産再開に取り組んでいきたいと考えており、若い人が住んで参加していくという生活環境の整備について要望されました。

川俣町長からは山木屋地区での帰還率が低く、特に18歳以下が厳しいというお話がありました。町としても政策展開を検討するので、大臣にも力をかしてほしいと要望がありました。

飯舘村長からは、復興庁は自治体側に立って、各省に今まで以上に働きかけてほしいと言われました。子供と若い人が戻らないというのが共通の課題であります。飯舘村はもとに戻すのではなく、新しい村づくりをしていきたいというお話がございました。

本日伺った地元の課題や御要望をしっかりと受け止め、被災者に寄り添いながら一日も早い被災地の復興に向けて全力で取り組んでまいります。

2. 質疑応答

(問) 今日、5か所自治体を回られて、訪問した率直な感想としてはどういったところでしたでしょうか。

(答) まずは、それぞれの地域にはそれぞれの課題があるということを感じてお話を聞いてわかりました。

その中で帰還困難地域は解除されても、なかなか帰ってこない、これは大変厳しい状況だというふうに思っております。こういったところを、しっかりと後押しをしていかなければならない、そのように感じました。

(問)

今、なかなか帰ってこないところが課題だというふうにおっしゃっていましたがけれども、ここに対する支援、どういうところに力を入れていきたいというふうにお考えですか。

(答) まず帰ってくる、環境整備をしていくことは大変重要だと思います。住まいをまず確保していくこと、さらにはその環境として、様々な住宅と、それから学校、それから生活する上で大事な様々な施設、こういったことを整備していくということが重要ではないかなど、そのように思っています。

(問) 先程の冒頭のお話の中で、東日本大震災発生直後、一度飯舘村を訪れていらっしゃるんですね。

(答) はい。発災直後にですね、まだ全村移転する前の話でありますけれども、実は、この村役場の前にあります線量計、この線量計の贈呈式に私は立ち会いました。

当時、私自身は浪人中でございました。この地域の亀岡先生と共に、この贈呈式で参加したというのが私にとって一番の原点です。

(問) 追加で聞きたいんですけども、それが何月で、そのときと今回また訪れてみて、御自分の目で御覧になった変化というのを教えてください。

(答) まずですね、発災直後でありましたので、線量はかなり高く、ここまで来るのにですね、線量計が振り切れていたというのが記憶にあります。

でも、今の状況では0.22、21の状況で、線量は大分ないという状況にあって、そういった意味ではですね、帰還していただいて、この村おこしを、これから新しい村おこしを是非とも飯舘の村長さんを中心にして、進めていただきたいな、そんな思いでいっぱいあります。

(問) うれしい気持ちもありますか。あのときと比べて、少しは人が戻ってきて、また進み始めているというのを見たのは、御自身うれしい気持ち。

(答) それはもちろん。やはり全村移転というのはですね、大変な決断です。自分の生活をですね、一旦放棄することと同じこととさせていただきますので、これがもとの生活に戻れるような環境をつくっていくことを大変重要だというふうに思いますし、そういった状況が一步一步進んでいることは大変喜ばしいことだというふうに思います。

まだまだ道半ばだと思いますけれども、そのためには我々としては、復興庁としてもしっかりと後押しをしていきたい、そのように思っております。

(問) 本日、会談した首長さんの中で復興創生期間が2020年で終了することについて何か意見を述べた方というのはいらっしゃったんでしょうか。

(答) この問題については、私たちは少なくとも復興再生期間のその後についても、福島についてはしっかりと国が支援する、これはですね、お話をしたところではございます。

やはり状況はそれぞれの地域によって違いますけれども、福島については国としてしっかりとバックアップする体制でいるというお話はさせていただきます。

（問）大臣の方から。

（答）はい。

（問）先程飯舘村長との懇談の中で、各省庁にこれまで以上に働きかけてほしいというお話がありましたが、復興庁としてどういうふうリーダーシップをとっていかれる考えですか。

（答）復興庁の組織そのものは全省庁が全てかかわってくるわけですが、復興庁は全てに横串を入れて、それをしっかりとですね、進めていくようにですね、我々としてやっていかなければならないというふうに思っております。それが復興庁の役目ではないかなというふうに思っておりますので、単なる縦割りで進めていくわけじゃなく、復興庁がしっかりとリーダーシップをとってですね、やっていくことが大変重要だ、そのように思います。

（以 上）